

## 検討課題2 国外における資金源あるいは目的地の地理的区分

### 1 課題内容

フラスカティ・マニュアルでは、組織的区分（検討課題1）の他に、海外との資金の流れを地理的区域で分類することも有益としている。具体的には、①世界のすべての国、すべての大陸が選ばれること、②OECD圏を独立した形で明らかにできること、③OECD圏内の主要な経済ブロック（NAFTA、EU）が独立した形で明らかにできることなどから、以下の区分での把握を勧めている。

平成24年1月の統計委員会答申における、国外における資金源あるいは目的地を地理的区分で把握することの指摘を踏まえ検討する。

#### 【フラスカティ・マニュアルの地理的区分】

- ・北米(カナダ、メキシコ、アメリカ)
- ・欧州連合
- ・他の欧州のOECD加盟国
- ・アジアのOECD加盟国(日本、韓国)
- ・オセアニアのOECD加盟国(オーストラリア、ニュージーランド)
- ・他の欧州の非OECD加盟国
- ・他のアジアの非OECD加盟国
- ・中南米
- ・他のオセアニアの非OECD加盟国
- ・アフリカ

### 2 課題に対する検討状況

本課題については、以下の論点で検討を行った。

#### ①政策ニーズ

地理的区分に関する要望を聴取したが、各府省からの喫緊の具体的ニーズはなかった。（研究資金の流れを国際的にみる上では参考になるかもしれないが、現状において地理的区分のデータが無い事による重大な支障は生じていない。）

#### ②記入負担の軽減及び記入精度の確保

類似の調査項目として、企業において、国別の技術交流に関する項目を調査しているが、当該項目の記入に関する照会は、他の項目に比べて多く、記入者にとってかなりの負担となっていることから、資金源あるいは目的地に関する地理的区分による把握に関しても、相当の負担をかけるとともに、記入精度を確保することは難しいと思われる。

### 3 事務局案

組織区分を変更（検討課題1）した上で、地理的区分での記入を求めることは相当の負担を強いることから、地理的区分については、平成26年調査では採用しないこととしたい。

※フラスカティ・マニュアルに掲げられている事項については、基本的にOECDにおいて各国のデータを収集しているが、現在のところ地理的区分については、OECDでもデータ収集をしていない。